

清流



平成31年 2月 1日 文責 石丸 慎也

心をひとつにして ～ 長なわとび大会



今週初め、児童会主催の長なわとび大会が行われました。全児童が運動場いっぱいに広がって、力を合わせて回数を競いました。子ども達はこの催しからいろいろなことを学びます。全員で一つの目標に向かっていくという意識、なわを回す人が跳ぶ人のタイミングに合わせようとする意識、人が失敗しても決して責めないという意識、そして何よりもみんなが仲間であるという

意識をもてるということです。跳べた回数が、これまでの練習の最高記録を超えたのであれば、大成功だと思います。もしそうでなかったとしても、子ども達はこの長なわとび大会をとおして大切な多くのことに気づくことができたはずです。

児童集会で ～ 給食委員会より



先日の児童集会では給食委員会からお知らせがありました。テーマは“早寝・早起・朝ご飯”です。前日の夜に早く寝ることができないと次の朝は決まった時間に起きることができない、そのため朝ご飯を食べる時間もなくなる、学校では勉強に集中できず、楽しく過ごせないというように、悪循環になってしまうことが劇によって紹介されました。

小学生が寝る時間帯は9時ごろ、そうすれば次の日の朝は6時くらいには起きて朝ご飯もしっかり食べることができるということでした。

感想交流でも、「夜遅いと朝つらくなる」「きちんと早寝早起き朝ご飯をしないと生活が乱れる」などの声があがっていました。寒い季節ですが、気持ちを強くもって乗り切っていきたいものです。



子ども達を見守るせんだんの木



川上小学校のせんだんの木は、いったいいつから校庭にそびえ立っているのでしょうか。改めて眺めてみると、本当に樹高を感じます。木の下に立ってみると上の方からおおいかぶさってくるようです。

先日、低学年の子ども達が「トレーニング」と称して校庭の一番外側を歩いている光景を目にしました。その途中で数人がせんだんの木に寄りかかり、談笑が始まりました。「そうか、これまでそうやって数え切れないくらい多くの子ども達がせんだんの木の下でそれぞれの時間を過ごしてきたんだな」という思いがわいてきました。

左上の写真は5月に撮影したものです。枝にはうす紫色の花が満開です。葉も青々と繁っています。左下の写真は1月のものです。雪が降った日に撮影したのですが、幽玄の美を感じます。

（印刷版では色が見えないこととお詫びします）

今から10年ほど前、アオバズクの親子が校庭の西側と南側それぞれのせんだんの木の間を往復しながら飛行する練習をしている様子を見たことがあります。アオバズクの子が上手に飛行することができるよう親アオバズクがしっかりと見守っていました。この光景は川上小の子ども達や教師の姿と重なります。一生懸命に学び遊ぶ子ども達を教師が見守る姿です。

現在ではアオバズクは飛来しなくなりましたが、またいつかきっとひょっこりとかわいい姿を

見せてくれることを願っています。せんだんの木は、これからも子ども達を見守り続けていくことでしょう。



校長室から

わけあって6年生に体育を教えることになった。久しぶりの体育の授業。学習前のランニングや準備体操の段階でもうついていけない自分がある。（こんなはずでは…）という思いがわいてくる。だが、せっかく与えてもらった子ども達との学びの時間。大切にしていきたい。